

中世寺院社会と民衆

下坂守 著

衆徒と馬借・神人・河原者

▶ A 5判・432頁／定価：本体 7,500円(税別)
ISBN 978-4-7842-1779-3

2014年10月刊行

中世において比叡山延暦寺が果たした歴史的役割を、同寺の活動実態とその支配下にあった京・近江の民衆との関係を中心に考察する。山門の嗷訴の検討から、山門の「惣寺」がどのような組織と機能をもつものであったかを明らかにしたうえで、足利義満以降の武家政権との関係や、近江坂本の在地人と日吉社の大津神人が山門の活動にどのような影響を与えたかを論じ、さらには、中世都市京都の変容についても、絵画史料を駆使して明らかにする。「王法仏法相依論」に貫かれた中世寺院社会の具体像に光を当てる一書。

●内容目次●

序にかえて

第一篇 衆徒と閉籠

第一章 中世延暦寺の大衆と「閉籠」

—『元徳二年三月日吉社并叡山行幸記』に見える大衆の動向—
『行幸記』の信憑性／『行幸記』に見える「閉籠」／「院々谷々」の大衆と閉籠／覆面姿の閉籠衆

第二章 「山訴」の実相とその歴史的意義

—延暦寺惣寺と幕府権力との関係を中心に—
堂舎閉籠から神輿動座へ／閉籠衆と「堂中」「対決」／日吉の祭礼と祇園会・北野祭／土一揆の蜂起と疫病の流行

第三章 中世寺院社会における身分—天台宗寺院の事例を中心に—

園城寺の僧／延暦寺の「上方」／延暦寺の「中方」と「下僧」

補論 中世における「智証大師関係文書典籍」の伝来

—貞和二年六月の「大師御重書」の「感得」を中心に—
三巻の注進状・目録／文書目録の作成契機／目録の内容

第二篇 坂本の馬借

第一章 中世・坂本の都市構造—六箇条と三津浜の「在地」をめぐる—

応永元年の社頭掃除／坂本の「在地人」と「在地」／三津浜の六つの在地／上坂本の三カ所の風呂屋／「近所ノ風呂」／三津浜の六つの在地／「近所ノ風呂」／在地の祭と講／上下坂本の鎮守社／六箇条の区域

第二章 堅田大責と坂本の馬借

延暦寺の堅田大責／延暦寺と坂本の馬借／延暦寺衆徒と神輿振り／日吉社と「馬ノ衆」／神輿振りと馬借蜂起

第三章 坂本の馬借と土一揆—「王法仏法相依論」の呪縛からの解放—

康暦元年と応永二十五年の坂本馬借の嗷訴／応永三十三年の坂本馬借の嗷訴／坂本における馬借の存在形態／坂本の土一揆と馬借

第三篇 山門と日吉社

第一章 大津神人と日吉祭—祭礼の司祭と鋪説—

日吉社の縁起と大津神人—船渡御と唐崎宿院—／「大津生得神人」と「京都の入神人」／「粟津の御供」の成立／「粟御供」の備進主体の変化

第二章 大津神人と山門衆徒

大津神人と日吉社—田中恒世と宇志丸の末裔—／大津神人の官への訴え／日吉社司と山門衆徒／大津神人と山門衆徒

第三章 衆徒の金融と神人の金融

「悪僧」の金融／「神人」の金融／乾元元年の神輿造替—「大津生得の神人」と「京都の入神人」／正和四年の神輿造替—「山門気風の土倉」

第四篇 中世都市・京都の変容

第一章 応仁の乱と京都

—室町幕府の役銭と山門の馬上役の変質をめぐる—
東軍の「御構」—幕府の限定された統治区域—／西軍の「下京」—「五條町前後八町」の状況を中心に—／馬上役徴収主体の変化—応永二年から文明二年まで—／乱中の馬上役の実態—文明三年から文明六年まで—

第二章 中世京都・東山の風景

—祇園社境内の景観とその変貌をめぐる—
路傍の石塔と堂舎／本殿と四条橋の「杓ふり」／四条橋西詰めの鳥居

第三章 中世「四条河原」考—描かれた「四てうのあおや」をめぐる—

「河原者宿所」の位置／「余部屋敷」の領域／描かれた「余部屋敷」／「四てうあおや」の図像／紺屋と青屋

付篇 付論 『言継卿記』に見える法住寺

法住寺の「御はんせん」／後白河法皇の「絵像御影」／「御影」の行方

史料紹介 「岡本保望上賀茂神社興隆堂」

しもさか・まもる…1948年生。大谷大学大学院文学研究科修士課程修了。日本中世専攻。博士(文学 立命館大学)。大津市史編纂室、京都国立博物館、文化庁美術学芸課、帝塚山大学人文学科、奈良大学史学科において勤務。京都国立博物館名誉館員。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	中世寺院社会と民衆	本体7,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1779-3
お名前		tel		
		e-mail		
ご住所	〒			
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)		本書HPのQRコード	書店番線印

※中世寺院社会の研究

下坂守著

思文閣史学叢書

中世社会における影響力の大きさにもかかわらず、その活動を総体として把握しようとする試みがほとんど行なわれてこなかった比叡山延暦寺を主たる対象とする。惣寺——僧侶たちによる合議——を基礎単位とした中世寺院の広がりや寺院社会として捉え、その歴史的な意味を考察。

▶A5判・598頁／本体 9,800円

ISBN4-7842-1091-1

日本中世の地域社会と仏教

湯之上隆著

写経や法会、開板事業、偽文書など様々な事象を通して、個人や集団の宗教行為がいかなる社会性を持ったのか、中世の地域社会における、仏教と社会との関係性を明かす。静岡県を中心とした地域の寺社文書の詳細紹介、紀行文から見る地域社会など、「宗教」と「地域社会」をキーワードとして社会を概観する。

▶A5判・380頁／本体 8,000円

ISBN978-4-7842-1773-1

※室町・戦国期研究を読みなおす

中世後期研究会編

若手研究者が提示する研究の過去・現在・未来【内容】政治史を読みなおす〔公武関係を読みなおす〕(松永和浩／挑崎有一郎)〔都鄙関係を読みなおす〕(山田徹／吉田賢司／平出真宣／尾下成敏) 社会史を読みなおす(西島太郎／清水克行／三枝暁子) 経済史を読みなおす(早島大祐／高谷知佳) 宗教史を読みなおす(大田壮一郎／安藤弥)

▶A5判・408頁／本体 4,600円

ISBN978-4-7842-1371-9

日本中世の領主一揆

呉座勇一著

南北朝内乱以降、中世は本格的に「一揆の時代」を迎え、多種多様な一揆の中でも、最初に時代を牽引したのは年貢公事の徴収者にして地域社会の治安維持者であった在地領主による一揆、つまり「領主の一揆」であった。本書は今までの研究蓄積の上に、「領主の一揆」の構造・機能・結合論理を解明し、新しい国人一揆論を提示する。

▶A5判・380頁／本体 7,200円

ISBN978-4-7842-1721-2

※京都の都市共同体と権力

仁木宏著

思文閣史学叢書

中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容のなかから町(ちょう)の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明らかにする。中近世移行期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見すえ、都市の本質を具体的、理論的に分析した一書。

▶A5判・332頁／本体 6,300円

ISBN978-4-7842-1518-8

中世京都の空間構造と礼節体系

挑崎有一郎著

貴人と牛車ですれ違う場合の正しい作法は？
参内するときはどこで牛車を降りればよいのか？
中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、室町殿権力の形成・展開過程をも論ずる。

▶A5判・584頁／本体 7,200円

ISBN978-4-7842-1502-7

一休派の結衆と史的展開の研究

矢内一磨著

一休没後も存続した一休派の結衆とその史的展開を解明することで、中世末期の寺院研究史上の欠如を埋める。一休の印可、法嗣否定による法統断絶の危機、門派結衆の軸としての一休塔所での評議、門派での祖師忌法会を第一部でとりあげ、大徳寺復興や在俗信仰者の結衆の問題を第二部で扱う。

▶A5判・370頁／本体 7,800円

ISBN978-4-7842-1525-6

神社継承の制度史

相山林繼・宇野日出生編

神社史料研究会叢書V

神社・神道研究のみならず幅広い分野の研究に資するという視点で神社史料の有効活用・研究の深化普及を目的として結成された神社史料研究会(代表・橋本政宣氏)の研究成果のシリーズ第5巻。古代より近代にいたるまで神社が継承されてきた諸問題について、主に制度史としての視点で論究した珠玉の論文9篇を収録。

▶A5判・348頁／本体 7,500円

ISBN978-4-7842-1418-1

京都文化の伝播と地域社会

源城政好著

思文閣史学叢書

京都とその近郊の中世文化史に取り組んできた著者が、今までの成果をまとめた一書。在地(荘園)をめぐる動向、公武の文芸交流と伝播、さらに河原者・声聞師の被差別民衆の諸相と室町・戦国期の人物論を収めた。

▶A5判・400頁／本体 7,800円

ISBN4-7842-1325-2

南都寺院文書の世界

勝山清次編

東大寺宝珠院(法華堂文書・宝珠院文書)と興福寺一乘院坊官二条家(一乘院文書・一乘院御用日記)に伝来した文書の調査・研究の成果。多くは、これまで利用されていなかった文書を用いた論考であり、東大寺・興福寺を中心とした南都寺院の寺領やネットワークに関する研究をこれらの史料をもとに展開する。

▶A5判・350頁／本体 5,800円

ISBN978-4-7842-1369-6

天龍寺文書の研究

原田正俊編

京都嵯峨の名刹・天龍寺の古文書は、仏教史・寺院史のみならず多数の朝廷・幕府発給の文書、荘園関係文書を含み、政治史・社会経済史研究に必須の文書群である。第一部には鎌倉時代～慶長5年の中世天龍寺関係文書および関連諸塔頭文書を翻刻・掲載、第二部には研究編として解説・論考を収録する。

▶A5判・712頁／本体 14,000円

ISBN978-4-7842-1571-3

※鹿王院文書の研究

鹿王院文書研究会編

嵯峨の鹿王院に伝来する古文書を集成、翻刻。解題・研究篇を付す。
【内容】第一部 文書篇(915点を編年で収録) 第二部 解題・研究篇(地主智彦／原田正俊／仁木宏／玉城玲子／藤田励夫／西村幸信／滝沢幸恵／伊藤真昭／矢内一磨)

▶A5判・530頁／本体 13,000円

ISBN4-7842-1037-7

中世後期の香文化 香道の黎明

本間洋子著

香会と香木・薫物の贈答を香文化として捉え、香道の発生の一次史料を基に、三條西実隆や志野宗信と香との関係、「香会」の具体的な内容、天皇への香木献上や天皇からの薫物・匂い袋の下賜を数量的かつ具体的に考察する三視点から、中世後期の香文化を解明する。香道について初めての裏証的な歴史的研究。

▶A5判・426頁／本体 8,200円

ISBN978-4-7842-1733-5

中世蹴鞠史の研究 鞠会を中心に

稲垣弘明著

室町期以降の蹴鞠会の挙行形態の歴史を体系的に論じた一書。とくに応仁・文明の大乱後の15世紀後半における蹴鞠会について、新興武家層を参会者として加えた場より遊戯性を加味しながら変容し、「故実」に代わって「新儀」が定着すること、それが近世の家元制度の萌芽と認められることなどを明らかにした。

▶A5判・300頁／本体 5,500円

ISBN978-4-7842-1390-0

散所・声聞師・舞々の研究

世界人権問題研究センター編

世界人権問題研究センターでの共同研究の成果。散所の人々が携わった芸能あるいは陰陽道などのかかわりを含めて、文献・絵画・地図の綿密な分析をこころみ、洛中・山城国・近江国における実態を浮きぼりにする。座談会のほか、研究ツールとしての年表・文献目録・基本史料を収録。

▶A5判・590頁／本体 8,200円

ISBN4-7842-1219-1

中世村落の景観と環境 山門領近江国木津荘

水野草二編

近江の湖西、高島郡の木津荘(現・新旭町)は、山門の寺務機構が管理・運営する天台座主直轄の重要荘園である。本書はこの木津荘に残る検注帳・引田帳ほか文献の詳細な検討、地表に残されている用水路や水田の形状、地名・伝承など「生きた文化財」の調査から、山門領荘園の実態と中世村落の景観に迫る。

▶A5判・392頁／本体 6,800円

ISBN4-7842-1198-5

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。